

な か よ く か し こ く い き い き

北九州市立中井小学校
文責
校長 野々平 美幸

全国学力学習状況調査の結果を報告します NO.1

4月18日に、6年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」を実施しました。本年度の本校の概況をお知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。調査の結果から明らかになった課題の解決に取り組むとともに、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指していきたいと考えます。

調査の内容は、国語と算数の教科に関する調査のA問題（基本的な知識・理解に関する調査）、B問題（知識や理解していることを活用する力に関する調査）と、学習状況や生活習慣、学習環境等に関する調査です。

<結果の概況>

国語：A問題、B問題ともに全国平均正答率を下回りました

A問題については、漢字を正しい読み書きが定着できていない傾向が見られました。同音異義語がある熟語を答える問題の正答率が低かったです。繰り返しの漢字の練習や、読書や辞書をひくことを通してことばの意味を理解するなどの基本的な学習を繰り返す必要があります。また、手紙の書き方についての正答率が低かったため、手紙など実用的な文章の書き方の指導も年間計画に位置づけて取り組んでいきます。

B問題については、全9問中4問で正答率が全国平均を上回っていました。また、多くの問題で無回答率が全国を下回っており、問題文を読み、何かしら書こうとする姿勢が見られることはよいことだととらえています。国語Aと同様、書くことの指導において、目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書く問題や、自分の考えを広げたり深めたりするための、発言の意図を捉える問題の正答率が低かったです。

書くことの指導においては、相手や目的を明確にしながら、必要な事柄を選んで書かせる取組を続けることが必要と考えます。そこで、1学期から、言語に関する知識を増やし、資料から必要な情報を取り出し、それをもとに自分の考えを書く活動として、朝の学習に新聞記事を読んで気付きや考えを書くワークを採り入れて継続して取り組んでいます。

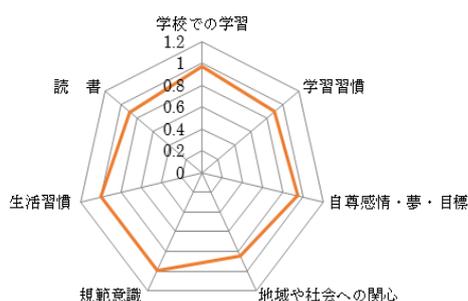
算数：A問題、B問題ともに全国平均正答率を下回りました

A問題の「数と計算」の領域では、半数の問題の正答率が全国平均を上回っていますが、他の領域では、ほとんど全国平均を下回っており、無回答率も高かったです。基礎的な計算だけでなく「分ける」「比べる」「関係づける」などの算数的活動を意識させた学習に力を入れます。

B問題については、問題の意味を考え、求める解のために、必要な情報を判断し特定することに課題があることが分かりました。資料の読み取りや、資料から問題を解決するために必要なことを判断する力をつけていく指導に力を入れます。

生活や他の分野における事象と算数の学習で得た知識を繋いで考えることや学んだことが生活の中に活かされていることを実感する場面を増やす工夫もしていきたいと考えます

学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



学習習慣としては、宿題はするけれど、「自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた児童の割合が全国平均よりもかなり低いです。宿題と併せて学年に応じた自主的な学習を推奨していきたいと考えます。

学校での学習については、「課題に進んで取り組む」や、「話し合い活動を行って自分の考えを深めたり広めたりしている」という項目での肯定的回答の割合が全国平均よりも10ポイント近く低かったです。本校では、自分の考えをもち、それを表現する（話したり書いたり話し合ったりする）ことに重点を置いて授業改善に取り組んでいます。子どもが自分からしっかり考えることができるように工夫するとともに、課題

解決の進め方や話し合いの仕方など「学び方」の指導を今後も継続的に行って行きたいと考えます。さらに、学習への興味関心を高める工夫や子どもたちの視線や意識を集中させる工夫に取り組めます。